

文芸

芸術学科 文芸コース

TR テキストレポート科目 TW テキスト作品科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 GS 芸術学舎科目 WS Webスクーリング科目 必 必修科目 選必 選択必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2017年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

文芸コース専門教育科目

STEP①

STEP②

文学の広く豊かな世界を深く知ることをめざす。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位 修得 試験	履修内容
1年次～						
文芸基礎講義	履修計画指導	TX	必	2		入門的な科目。年度初めのオリエンテーションの機会に、文芸コースの教育目標、卒業までの学習の進め方について講義し、学習者が今後どのように文芸の世界における学びを展開してゆかか考える。
文芸入門	読むこと・書くこと	S	必	1		今後の学修に必要な、「読むこと」「書くこと」の基本的な姿勢について、さまざまな角度から検討する。
文芸 I-1	日本文学	S	必	2		近代文学を中心に、いくつかのテーマや視点を設定し、日本文学について視野を広げる講義を行う。
文芸 I-3	世界の古典	S	必	2		世界のさまざまな文学の源泉をたどることで、文学の基本構造やその変容をとらえ、現代の創作に結びつけることを目的とする。
文芸 I-4	小説の構造と技法	S	必	2		小説はいかにして構築されているのだろうか。最新の文学理論に至る、さまざまな考察をもとに、小説の複雑なメカニズムの謎を明らかにしていく。
文芸 II-1	短編小説	S	選	2		短編小説には、独自の世界がある。限られた文字数のなかで、さまざまな仕掛けや技巧が駆使されているからである。短編小説というジャンルの特性と方法について学ぶ。
文芸 II-2	俳句と連句	S	選	2		三日間で集中して、日本の詩歌の歴史や違いを、鑑賞と実作を通して学ぶ。短歌、連句、俳句の実作によって、それぞれのジャンルの相違点を捉えること、また句会体験によって、詩歌を身近に楽しむ方法を体得することを目標とする。
文芸 II-3	トラベル・ライティング	S	選	2		旅とは、未知の世界の発見であると同時に、自分自身の再発見でもある。それゆえに、旅は文学の貴重な素材となる。紀行文にとどまらない、旅の文学の可能性をさぐる。
文芸 II-4	ストーリーとシナリオ	S	選	2		小説や戯曲・シナリオを読解しながら、実際の執筆にあたっての基本ルールを確認する。読者が物語になにを求めているのかを理解し、ワークショップを通して実践を試みる。
文芸 III-1	エッセイ	S	選	1		現役のエッセイストがエッセイの書き方を伝授する授業。エッセイを読み解くこと、エッセイを書くこと、読み手の反応を確かめ推敲すること、に重点を置き、実践する。
文芸 III-2	テーマで読む文学	S	選	1		「恋愛」、「病」、「戦争」といったテーマは、文学でどのように表現されるのか。文学史でも、作家論でもない新しい視点として、テーマにしたがって、複数の作品を読み比べていく。
文芸 III-3	現代小説の前線	S	選	1		今現在、どのような小説が書かれているのか、そこで作家たちはどんな意識を抱いているのか、なにが問題になっているのか。現代小説の最前線にいるクリエイターや評論家に生の声で語ってもらう。
文芸 III-4	比較文学	S	選	1		異なる言語や異なる文化の接触によって文学はいかに変化するのか。そしてそれを研究する際にはどのような配慮が要求されるのか。比較文学研究方法論の基礎。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸Ⅲ-5	文芸の京都	S	選	1		千年の都・京都が生み出してきた文芸世界を、具体的な人脈や、都市文化、地勢の中で考える。
文芸論Ⅰ-1	創作のテクニック	TR	必	2	有	小説の書き出し、プロットとストーリー、語りや人称の種類、会話の創り方など、小説を創作するうえで必要な技法を学ぶ。
文芸論Ⅰ-2	近代文学	TR	必	2	有	日本の近代文学の代表的作家と考えられている作家の作品を読み返すことによって近代小説のおもしろさを再発見するとともに、日本の近代文学が抱えていた問題意識を現在の目から捉えなおす。
文芸論Ⅱ-1	古典文学	TR	選	2	有	王朝和歌を中心に、古典詩歌の世界にふれる。
文芸論Ⅱ-2	批評理論入門	TR	選	2	有	批評とは作品を精読しそこから意味を汲みとる作業にほかならないが、井戸から水を汲むのに釣瓶がいるのと同じで、批評にも「道具」が必要である。本授業では、その「道具」として批評理論のヴォキャブラリを学び、それを使って実際に作品を読み解くことに挑戦する。
文芸論Ⅱ-3	文芸批評	TR	選	2	有	具体的な作品に即して近現代の批評作品にふれ、批評が取り組んできた問題を知り、その方法と表現を読み解く。
文芸論Ⅱ-4	ノンフィクション	TR	選	2	有	ノンフィクションは、スポーツ、事件、評伝、科学、環境問題、紀行など、さまざまな領域にわたる。優れたノンフィクションはどのような要件を備えているのだろうか。この要件を考察する。
文芸論Ⅱ-5	論文の読み方・書き方	TR	選	2	有	文学を扱う論文はどのような配慮が必要とされるか。また一般に論文を書く際には何に気をつけたらよいか。文学研究を志す基礎を学ぶ。
文芸演習Ⅰ-1	創作初歩	TR	必	2	有	小説や批評やエッセイなどというジャンルに分けられた文章に挑戦する前の、いわば「書き言葉のウォーミング・アップ」として、身近な題材で原稿用紙数枚程度の文章を実際に書いてみる。多くの文章表現法が共通して指摘する具体的な助言を確認し、「人に見られることを意識した文章」をめざす。
文芸演習Ⅰ-2	創作する 1	TR	必	2	有	フィクションの文章を書く基礎力を養成する。小説とは、現実とはまったく違う世界を「才能」によって無から作りあげることではなく、いわば読むことと書くことの往復運動の中から生成される言葉のつらなりと言ってよいだろう。誰にでも足を踏み入れることのできる基礎的なレベルからはじめ、段階を経て「小説」を書くことへの足がかりを、実践的な課題を通して提供する。
文芸演習Ⅱ-1	創作する 2	TR	選	2	有	
文芸演習Ⅱ-2	創作する 3	TR	選	2	有	
文芸演習Ⅱ-3	エッセイを書く	TR	選	2	有	身近な話題を題材に、限られた字数の中で自分の書きたいことをいかにまとめるか。実践的に学ぶエッセイ入門。
文芸実践	本を作る	S	選	1		「原稿から製本まで」。実際に教室で一冊の本を、初めから終わりまで自らの手で制作してみる。

STEP③

自分のテーマを見つけ、それを表現する方法を探る。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
3年次						
文芸Ⅰ-2	外国文学	S	必	2		[外国文学] 中世から現代まで、世界文学の道標をたどる。それは文学の多様性を認識し、その可能性をさぐる機会でもある。
論文研究Ⅰ-1		S	必	1		卒業研究の前段階として、自らの創作・研究を発表し、ゼミ形式で合評を行う中で卒業研究への足がかりとする。
論文研究Ⅰ-2		TX	必	1		
論文研究Ⅱ-1		S	必	1		
論文研究Ⅱ-2		TX	必	1		

学びの集大成となる卒業研究の制作に取り組む。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
4年次						
卒業研究		TX	必	8		各自の設定した主題にもとづく論文を指導。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります。(歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学概論	S	選	2		さまざまな時代の芸術理論を参考にしながら芸術の基礎的な諸問題を概観する。
日本美術論	S	選	2		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	選	2		古代から近代に至るヨーロッパ美術の流れを、建築、彫刻、絵画、工芸の各ジャンルの作品を通して、体系的、かつ具体的に理解する。
アジア美術論	S	選	2		[中国] 世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島] 高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
仏教美術論	S	選	2		東アジア諸国に広がっている仏教美術について、その源流となる古代のインド仏教美術を中心としながら、様々な歴史的・地域的展開を概観する。
音楽文化論	S	選	2		音楽を文化社会現象としてとらえ、「音楽は素朴に聞いて楽しめばいい」という命題に潜む「畏」について理解したうえで、音楽の楽しみ方を学ぶ。
文化芸術遺産フィールドワーク 1	S	選	1		芸術学や歴史遺産の視点から、京都・滋賀の神社仏閣、博物館に伝えられる文化芸術遺産について学ぶ。 1日目に教室の対面授業によって訪問先について詳しく学び、2日目は学外研修として学んだ訪問先を実際に訪れる。
文化芸術遺産フィールドワーク 2	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 3	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 4	S	選	1		
地域芸術学フィールドワーク	S	選	1		
歴史遺産学概論	S	選 ※歴必修	2		歴史遺産学を学ぶために大切なふたつの分野(もの(文化遺産))と(ところ(歴史文化))について、歴史文化、文化財科学、保存修復などの各分野の専門教員がおこなうオムニバス講義。
京都の歴史	S	選 ※歴必修	2		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的なことから、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。
文化史特論	S	選 ※歴必修	2		中世史、芸能史、美術史の各研究者による自身の研究の紹介とともに、研究課題に対しどのように新しいアプローチをするのか、どのように史料を扱うのか、どのように論文として構成するのかなどを具体的に語っていただき、論文に取り組むためのさまざまな方法論を学ぶ。
史料学基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料には様々な種類があり、その特質など史料論を理解する科目。
史料講読基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、基礎・応用と段階を踏んで理解出来る科目群。
史料講読応用	TR	選	2	有	
文献資料講読	S	選	1		古文・漢文などの歴史的な史・史料について、それらを読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。
日本の古典を読む	S	選	2		古典文学の傑作のテキストに基づき、その構想力の広がり学ぶ。
文章表現基礎	S	選 ※文必修	1		一般的な文章表記のルールからはじめ、授業レポートだけでなく、「論文研究」そして「卒業研究」の執筆に必要な論述のテクニック、参考文献の扱い方まで射程に入れ、段階的に複雑な文章を学習する。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
日本文化の源流	TR	選	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	選	2	有	
日本の生活文化	TR	選	2	有	
伝統芸能の諸相	S	選 ※和必修	1		日本の伝統芸能は成立した時代によって異なる特質を有しています。この科目では、雅楽や今様、田楽、能楽など多様な芸能をとりあげて、時代背景をふまえながらその表現の魅力を考察します。また諸芸能の相互の関係性についても学びます。
伝統芸能と工芸	S	選 ※和必修	1		能や歌舞伎といった伝統芸能には舞や音楽以外にも様々な芸術が関わっています。この科目では特に能面などに代表される工芸分野と伝統芸能の接点を探ります。
絵画と日本文化	S	選 ※和必修	1		絵画もまた日本の伝統文化を語る上で欠かせないものです。この科目では室町時代の禅宗と絵画、あるいは近代日本における絵画など、多角的な視点から日本の絵画文化を学びます。
詩歌と日本文化	S	選 ※和必修	1		和歌や漢詩は古代より日本の伝統芸術の中核を為すものでした。その伝統を受け継いで室町期には連歌が、江戸期には俳諧が隆盛しますが、このような詩歌文化に関して考察する科目です。
花道文化の展開	S	選 ※和必修	1		日本の代表的な伝統文化のひとつである花道は室町時代に形を整え、江戸時代を通じてその思想を発展させてきました。本科目ではその歴史と思想を概観します。
伝統文化の空間	S	選 ※和必修	1		伝統文化が行われる空間、それは伝統文化の内容と切っても切り離せないものです。本科目では茶室や庭園をはじめとする空間の観点から伝統文化の「かたち」を考察します。
室礼ともてなし	S	選 ※和必修	1		お花やお茶、お香をはじめとする室内芸道において、室礼の知識は欠かせないものです。室町時代以降整備されてきた室礼の様式と「おもてなし」の心を学ぶ科目です。
茶道文化の展開	S	選 ※和必修	1		戦国時代から今日に至るまで日本の伝統文化に大きな位置を占めてきた茶道について、歴史の流れや茶人の思想を概観する科目です。
論文研究Ⅲ	TX	選	2		「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
論文研究基礎演習	TX	選	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。

コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

週末を中心とした3日間の開講のほかに、2日間で履修可能な科目が開講されます。卒業要件に必要な単位を東京で開講するスクーリングだけで修得することも可能です。ただし、京都のみ開講、東京のみ開講となる科目があるため、選択によってはその限りではありません。